

米政策迷走に終止符を

主食である「米」について、毎年7月末に策定される「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」の柱の1つは、需給や価格の安定を目的に、翌年6月末までの1年間の主食用米の供給量と需要量を推計した「需給見通し」であり、米の概算金決定や今後の作付け計画策定の際の重要指標です。しかし今回、**需給見通しの公表が初めて見送られました。**

そこで示される需要実績を踏まえて算定される毎年8月上旬公表の**「食料自給率」も延期**になります。昨年夏以降の米価高騰をめぐり、その原因究明と安定供給に向けて、重要性が増す中の見送りは驚きしかありません。

小泉大臣の対応は、「米価高騰」⇒「安い備蓄米をジャブジャブ出して米価を下げる」、「作況指数が現状と乖離との指摘」⇒「指数自体を廃止」、「需要実績が予想より上振れ」⇒「公表を先送り」、結果として「備蓄米不足」に陥る等、場当たりの対応に終始しています。

8月5日開催の「米の安定供給等実現関係閣僚会議」で、石破総理は**「価格高騰の要因は生産不足」**とし、米について**「増産に舵を**

公表見送りの主因は、直近1年間の需要実績が、当初需要見通しを37万トン上回り、711万トンになったことで、「米の消費量は毎年減少する」というこれまでの国の推計の前提が崩れ、7年産の需要見通しが立てられなくなったからです。

前号レポートで解説した通り、私は当初から「米価高騰の原因」を「流通の目詰まりではなく供給量不足」と指摘し続けてきました。

7月30日開催の食料・農業・農村政策審議会食糧部会で改めて明らかになりましたが、予想よりも需要量が大幅に増加したこと等から、今年6月末の民間在庫量は政府備蓄米の売れ残りを含めても157万トンと依然低水準となりました。これは前年度と全く同じ傾向であり、十分予想できたはずでした。

切る」とようやく表明しました。この方向性はいかねてから私も提言し続けてきたものであり歓迎しますが、問題はその手法です。

主食用以外の米の確保や、水活見直しのあり方も大きな課題であり、**「食料安全保障基礎支払」**等の直接支払いを組み合わせ、再生産可能な所得を下支えする政策で、農業者の手取りを増やし、食を守っていきます。



国民民主党山形県連
県内縦断キャラバン



日本一美酒県山形フェア



第22回四ヶ村棚田ほたる火
コンサート(大蔵村)



最上川水系等緊急治水対策
プロジェクト合同着工式(酒田市)



いいで黒べこ祭り(飯豊町)



由良海岸砂浜減少問題
現場視察(鶴岡市)



野草展(尾花沢市)



山形県美容業生活衛生同業
組合 第68回通常総代会



社会福祉法人舟和会法人設立・光生園
創立50周年記念式典・祝賀会(舟形町)



名勝「大沼の浮島」国名勝指定
100周年記念式典(朝日町)



さくらんぼ農園視察(山形市)



山形大学「朝活応援プロジェクト
100」について意見交換

参議院議員(山形県選挙区)

舟山やすえ レポート



FUNAYAMA YASUE REPORT

発行元：舟山やすえ事務所

〒990-0039
山形県山形市香澄町3丁目2番1号
山交ビル8階
TEL：023-627-2780
FAX：023-674-0278

2025年 Vol.46
夏号

※手取りを増やす政策、前進を！

国民民主党 大躍進！「手取りを増やす夏。」実現へ



7月20日に投開票が行われた第27回参議院選挙は、例年にない猛暑続きの中、気温に負けない熱い戦いとなりました。

昨年秋の衆院選で「与党過半数割れ」となった結果、野党の声も反映される熟議の国会が実現し、少しずつ政治は動き始めたかに思えますが、喫緊の課題である物価高騰対策や米不足への対応だけでなく、裏金問題についても、石破政権は場当たりの対応に終始するだけで、根本的対策を全く打ち出せていません。

戦後80年の節目の今こそ、しがらみだらけで機能不全の自民党の古い政治と訣別すべきであり、ガソリン暫定税率廃止や「103万円の壁」の178万円への引き上げ、農業の直接支払い制度等、「もっと手取りを増やす夏」にし、日本復活を実現させる！！そのための重要な戦いと位置付け、私も山形県を中心に全国各地で訴えました。

参議院議員会長として 全国各地の仲間の応援へ



埼玉県



神奈川県



山梨県



香川県

国民民主党は自民党に次ぐ2番目の比例票を頂き、衆院選に続き、改選4議席から17議席へと大きく躍進した結果、無所属議員を含めた会派の規模は25人となり、参議院で予算を伴う法案提出も可能となりました。

山形県選挙区では、無所属ながら私と同じ会派「国民民主党・新緑風会」に所属している「はが道也」さんが、投票締め切りの8時と同時に「当選確実」が出る圧勝で、2期目の当選を果たすことができました。

この結果は、6年間の活動への評価に加え、物価高による国民の苦しみや、米価高騰で迷走する政府の農業政策への現場の怒りが、連合山形、立憲民主党、国民民主党からなる「2党1団体」の一致団結した活動により、大きなうねりとして拡大したことによります。

はが道也総合選対本部長として、当選の喜びや皆様への感謝とともに、頂いた支持の分だけ責任の重さも痛感しており、「対決より解決」の原点を忘れず、「正直な政治」を貫き、政策実現に邁進して参ります。

第217回通常国会での主な質問を紹介します

4月21日 予算委員会 裏金問題

自民党派閥パーティーの裏金作り問題の参考人質疑で、派閥の要職を務めていた世耕弘成議員に対して質問しました。キックバックが始められた時期や、安倍元総理の指示で取り止めが検討されながらも結局再開するに至った経緯を中心に説明を求めましたが、説明責任には程遠い知らぬ存ぜぬの言い訳に終始し、依然として真相は藪の中のままです。



5月30日 本会議 食料システム法

法案自体の問題点や課題の他、米価高騰の原因と対策についても取り上げ、随意契約での備蓄米放出が農家の目には「低価格誘導策」に映り、生産意欲減退に拍車が掛かる懸念がある点を訴えました。原因は「供給の目詰まり」ではなく供給不足にあると主張し、今回の事態を教訓に、むしろ増産を後押しする政策に転換するよう小泉農林水産大臣に求めました。



4月25日 本会議 災害対策基本法

自治体職員の減少が進む中、災害発生時に集中する様々な業務の円滑な遂行に向けて、民間との役割分担も含め、いかに体制見直しを図るべきかや、避難所の環境改善を中心に防災担当大臣に質しました。また「公共交通」である鉄道が災害復旧事業の対象外である点を指摘した上で、赤字路線を中心に支援拡充を図るように国土交通大臣に迫りました。



6月2日 予算委員会 集中審議

米価高騰対策との関連で、今後、逆に米価が下落するような事態が起きたら、市場隔離等の価格引き上げ対策や生産農家への支援等を行ってもらえるのかを石破総理に質しました。また、農地が洪水防止機能等の多面的機能を果たしていることを評価して、農業生産とは切り離れた形で、水田や畑を維持するための基礎支払いを導入するように迫りました。



第27回 参議院議員通常選挙 結果報告

公認候補17名が当選!

昨年の衆議院選挙に続き、大幅議席増! 参議院では、無所属議員も合わせると25人となり、自民、立憲に次ぐ3番目の規模の会派に! →予算を伴う法案の単独提出も可能になりました。衆参合わせて総勢49名の国会議員で、「手取りを増やす」政策実現に向けて、引き続き全力で取り組みます。



手取りを増やす夏。



政治の役割は「国民のふところ」を豊かにすること

年収の壁対策↑ 家計支援↑
減税↓ 社会保険料の軽減↓ で、
みんなの手取りを増やす

7/30 与野党国対委員長が、
年内の暫定税率廃止を合意
8/1 暫定税率廃止法案を
野党7党で共同提出



所得税・住民税減税

- 基礎控除等を所得に関係なく123→178万円に引き上げ
- 年少扶養控除復活

消費税減税

- 実質賃金が増え続ける中、消費税は一律5%
- インボイス廃止

ガソリン代値下げ

- 暫定税率廃止(25.1円/ℓ)
- 二重課税廃止(約6円/ℓ)によるガソリン減税

電気代値下げ

- 再エネ賦課金徴収停止
- 厳格な安全基準を満たした原子力発電所の稼働・リブレース・新増設推進

現役世代の社会保険料軽減

- 年齢ではなく負担能力に応じた窓口負担(後期高齢者医療原則2割負担、外来特例の見直し)
- 公的医療保険の給付範囲見直し
- 後期高齢者医療制度への公費投入増

就職氷河期世代への伴走支援

- 年金の最低保障機能強化
- 年金遡及納付
- 親世代の介護問題支援
- 求職者ベーシック・インカム制度(仮称)の構築
- 公務員等への正規就労確保

日本の「食料」「土地」「海」「情報」を守る

- 食料安全保障基礎支払(10aあたり15,000円+政策加算)による農家の手取り確保、米価の安定、食料の安定確保
- 外国人土地取得規制、領海・国境・離島対策、スパイ活動防止対策